

③ ダムから水を引く

右は、スプリンクラーを使って畑に水をまいている写真です。東部地区ではあちこちにこのような光景が見られます。この水はどこから引いてきているのでしょうか。



(須釜地区の畑)

千五沢ダムを造り、その水を引いて田畑に豊かな作物が実るようになった様子を調べてみましょう。

ア 千五沢ダムを造る計画ができるまで

昭和33年、福島県南部は大きな日照りの害を受けました。これがきっかけとなって、農家の人々は用水源を確保するための、農業総合開発が行われるよう強く願うようになりました。昭和35年から、国が調査を始め、水源として北須川をせきとめて千五沢ダムを造る計画が立てられました。そして、国営総合開発事業として、昭和43年3月から工事が始められました。

始めは、開田703.2haをふくむ2,580haの計画でしたが、昭和45年からの米の生産調整のため、開田は全部中止となり、かわりに畑地かんがいに切りかえられました。しかし、千五沢ダムは計画どおり造られることになり、機械化・集団化された近代農業を目ざして開発することになりました。

イ 千五沢ダムの完成



昭和45年 7月 土を盛り始める
 昭和46年 11月 土盛り完了
 取水施設・管理棟の工事を始める
 昭和50年 3月 全部の工事完了

工 費	3,390,000,000円
水没戸数	38戸

ダムの完成により、田畑に水を引けるようになっただけでなく、水量を調節できるので、洪水を防げるようになったり、まわりの環境もよくなったりしています。